



# 研修参加者感想： 現職医療従事者



## Special Report スペシャル・レポート

**島田 昇二郎 様**

医療法人 社団シマダ 嶋田病院 病院長  
(ミレニア米国多職種医療研修プログラムに参加)

アメリカでの1週間の研修は夢のごとく過ぎました。ミレニア社スタッフのおかげで本当に有意義な研修をさせていただきました。参加者全員、帰りの飛行機の中で、帰国後に研修の成果を自分達の仕事の中でどのように発揮できるかわくわくしていたと思います。

今回の研修で感じたアメリカの医療は、徹底的に患者さんの状態を看護師が中心に把握し、看護計画(治療計画)を立て、日々の業務に流される事なくしっかりとゴールを見据え、毎日の看護・治療が行われている事でした。その事はまさに「患者さんの事を第一に考えた医療が実践されている」という事になると思います。残念ながら日本では看護師がやらなくてもよい業務がスタッフの不足により看護師にしわよせられ、本来の看護業務ができていない現実があります。アメリカのスタッフ数の充実をそのまま日本で実践する事は残念ながら不可能な事ですが、今回の研修を通して参加スタッフは、質の高い医療を行う為にそれぞれ自分達が本来求められている業務を再確認できたものと思います。

今までは、忙しさの中でつい忘れかけていた自分達が求めていた医療の実践のために、もう1度、業務内容・システムの見直しを行い、日本人が得意とする工夫を加え、理想の医療の実現に努めなければならないと感じました。今後、日本人の勤勉さ、足りない事を克服する能力を発揮できれば、将来モデルになる医療を提供できると感じる事ができました。心から今回の研修を企画して頂いたミレニア社に感謝します。



**成田 祐子 様**

市立札幌病院 看護師  
(個人募集型 ミレニア米国看護研修プログラムに参加)

海外研修ではたくさんの学びや経験ができ、その経験から早速病棟の新人教育体制を見直したり、退院支援アセスメントシートの内容の見直しを図ったりと少しずつ現場が変化できるように取り組んでおります。まずは部署で成果を出してから、病院全体へ取り組みを広げていくつもりです。

今回の研修では、しっかりと医療通訳もしてもらえたので、自分の課題を確認しながら研修を進める事ができました。かなりたくさんの研修内容で最後のほうは飽和状態でしたが、とても充実しておりました。ミレニア社スタッフの強力なサポートに感謝しております。ミレニア社での研修に興味を持っている後輩看護師もおりますので、是非紹介したいと思います。ミレニアで研修できて、本当に良かったです。

# Snapshots & Words

研修のひとコマ&感想



ミレニア社の下準備とコーディネーションで、満足度が最高の医療研修だった。日々の診療内容の改善につながるアイデア・情報を予想以上に得ることができ、感謝している。  
東京大学附属病院 救急科 医師



病棟現場での感染予防対策や転倒リスクなどの表示するシステムがしっかりしていて、活用しやすくなっていた。研修中に視察した様々な病院で実施されている感染対策と褥瘡対策を参考に、自院のシステムを改善できそうだ。  
徳州会グループ内病院 看護部管理者



調剤過誤の後に質管理委員会で是正措置を検討するのは自社と同じだが、その情報を社員全員で共有する所が違っていた。こちらの薬局では薬剤師、薬剤テクニシャン、事務とすべてのスタッフの一体感が強いと感じた。自社でも取り入れたいと思う。アイン・ファーマシーズ 薬剤師



ダビンチ手術支援ロボットの操作体験が出来たことはとても貴重であった。また、手術室の他の機器類や衛生管理についても手術部門の管理者に丁寧に説明してもらったので、満足している。山口大学附属病院 医療スタッフ

# WHY America?

## アメリカ医療研修のおもしろさ

- 職種による役割分担が明確で、看護師が看護に集中できている事や残業が無い事など理想的であると思った。最新の施設設備やシステムを見学し、**20年後の日本の医療をみた感じ**です。(山口大附属病院 看護師)
- 日本では癌専門医が他の診療科の医師と協力して癌治療を行うモデルに移行しつつある段階だが、米国では既に各種の癌専門医が連携して癌治療を行うモデルが確立されている。今回の研修を通して内科腫瘍医、放射線腫瘍医、婦人科癌や消化器癌などの各種癌専門外科医、緩和ケア専門医など様々な医師と面談でき、米国のがん治療の現状や他職種とのチーム連携を効果的に行うコツなどを含めて、自分の興味があった事が質問でき、充分理解できた。また腫瘍委員会の症例検討会議にも実際に参加し、意見交換できたのも良い刺激になった。(名古屋市立大学病院 消化器・一般外科 医師)
- 日本の皆保険制度の崩壊が進み、病院経営の厳しさが増す中で打開策・対応策のヒントを見つける為、米国医療視察に来た。視察して、業務の効率化とスピードが不可欠である事を改めて実感した。研修を通じて、入院期間短縮と在宅医療への移行が進んでいく今後の日本の医へ活かすことが出来るような、短い入院期間での入院から退院までの過程がよく理解できた。(社会医療法人 共愛会 医師)
- 米国医療の、「患者に医療をしてあげる」という上から目線ではなく、患者と同じ目線で「一緒に治療を行う」という姿勢が印象に残っている。(山口大学附属病院 医療スタッフ)
- 米国の精神科研修を通して、米国の医療機関では患者の人権や選択を尊重する為の対策があらゆる所に取り入れられていた事が分かった。日本ではまだ医療従事者による「指示」が優先される傾向があるが、患者の人権や考え方を尊重し関わっていく事の重要性を学んだ。(播磨サナトリウム・枚方療育園 医療スタッフ)

# Inspiration:

## インスピレーション

- 米国では通常医師が病院に常駐していない分、看護師が病院の中心的コーディネーターとして非常に幅広い活動をしているところが印象に残った。様々なエリアで生き生きと働く看護師と出会い意見交換ができた事が良い刺激になり、見習う部分もたくさんあると感じた。(東京大学附属病院 看護師)
- 視察先で出会った医療スタッフ達が、いかに誇りを持って働いているかという事を痛感した。自分の仕事に誇りを持ち、それに恥ずかしくないような専門知識を持つ事の重要性と、患者がいかに満足できるかが治癒率につながっていく事が再認識できた。また、長いキャリアを持ったスタッフでも常に新しい情報を積極的に学ぼうとしている姿勢に、一生学習できるのだと改めて思い、今後の意識付けにしたい。(山口大学附属病院 医療スタッフ)
- 緩和ケアのナース・プラクティショナー(上級看護師)との面談で、「患者が末期になる前に医師から緩和ケアを要請される事が少ないので、末期のQOL向上が充分に行えない」という日本と共通の課題に対し、彼女が実際に癌病棟やICUの看護師に対して緩和ケアセミナーを実施するなどの具体的対策を取る事によって実際に緩和ケアを受ける患者数が増えているという実績に結びついている事が大変素晴らしいと感じた。自院でどうすれば改善できるかのヒントになったし、精神的にも大きな励みになった。(名古屋市立大学病院 緩和ケアチーム看護師)



# Useful: 研修で学んだ事を日本の現場に落としこむ

- 褥瘡や転倒などのリスクを色分けにして病室のベッドのすぐ上に貼ったり、病室の外にもリスクのサインを貼るなど視覚に訴え、非医療スタッフを含めたスタッフ全員の意識を高める共有の仕方。また、「転倒ゼロ ○日目」というような、ポジティブなモチベーションのあげ方の工夫は参考になったので、自院に直ぐにでも取り入れたい。  
(大分大学附属病院 看護管理職)
- 看護師の12時間勤務体制への移行が研修テーマの1つだったが、複数の施設で看護管理職に12時間シフトにのメリットとデメリットについてディスカッションができた。米国でも8時間シフトから12時間に移行するにあたり苦労があったという経験談を聞いて参考になった。我がグループでも大きなハードルがありそうだが、スタッフの意見を尊重し進めたい。(徳洲会グループ内病院 看護部管理者)
- 日本は入院中のリハビリが比較的長期に受けられる為、具体的な回復目標も設定せず時間を過ごすことも多くある。また、療法士と患者が依存してしまう事が多くある。米国でのリハビリ現場視察と療法士との面談から学んだ事を生かして、自院でも具体的に目標を設定し、療法士も患者も自立できるような環境を整えていきたい。  
(社会医療法人 共愛会 戸畑共立病院 リハビリ科主任言語聴覚士)
- 病室内のホワイトボードに担当看護師、療法士の名前と連絡先、今日の目標やスケジュール等が表示されていた。このような患者家族と医療スタッフのコミュニケーションボードは直ぐにでも現場に取り入れたい。  
(社会医療法人 共愛会 医療スタッフ)
- 薬剤部門でももう少し人的な余裕ができた時に薬剤師が何をすべきかという、やはり患者教育だという事が今回の研修で分かった。具体的には患者が薬の名前を自分で言えたり、副作用、飲むタイミングなど、ある程度自分で理解できている状態に持っていき、患者の理解レベルを確かめるというように現状の患者教育を変えていこうと思う。  
(山口大学附属病院 薬剤師)
- 新人離職率を大幅に下げた実績のある新人看護師教育プログラムのプレゼンテーションでは、素晴らしいシステムに感動した。全部を真似る事はできないが、自院の新人教員プログラムに取り入れられる部分は取り入れた。  
(東京大学附属病院 看護師)
- スタッフのモチベーションを上げる為の具体的な工夫例がとても参考になった。それぞれのスタッフがお互いに観察しあい、ちいさな事でも良い事を見つけて掲示板に貼るなどポジティブにスタッフのサービスの質をあげていくシステムはアメリカならではと思う。自分の薬局でもこのような工夫を取り入れたい。(アイン・ファーマシーズ 薬剤師)

Copyright © Millennia Education 2013 本紙の無断複写・改造を禁止します。

《お問い合わせ》

ミレニア・エデュケーション

Millennia Holdings, Inc.

E-mail: [info@iryu-kenshu.com](mailto:info@iryu-kenshu.com)

Web: [www.iryu-kenshu.com](http://www.iryu-kenshu.com)

Tel: 1(米国 国番号)-213-252-1230